

2024年3月

各 位

東北生産性本部

会 長 三 浦 直 人

「2024年度 仙台シンポジウム」の年間申し込みのご案内

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。当本部の事業に対しましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、2024年度の仙台シンポジウムの企画がまとまりましたので、ご案内させていただきます。

2024年度仙台シンポジウムは、これまでの企業経営、政治、地方創生、マクロ経済、国際関係、国際政治、DXの7テーマを計画しております。

これまで以上の多くの皆さまからのご参加につきまして、どうぞよろしく願い申し上げます。

敬 具

(添付資料)

1. 年間参加申込案内・申込書
2. 「2024年度 仙台シンポジウム」の概要と講師の紹介

2024年度 仙台シンポジウム 年間参加申込案内

■ 参加費（年間7回分）

会員企業・労組・団体（2名） 80,000円（税込）

非会員企業・労組・団体（2名） 108,000円（税込）

[参考] 単発での申し込みの場合

会員企業・労組・団体（1名） 7,500円（税込）

非会員企業・労組・団体（1名） 10,000円（税込）

■ 申込方法

下記の「参加申込書」に必要事項をご記入の上、電子メール又はFAXでお申し込みください。電子メールの場合、メール本文にベタ打ちでも結構です。

■ 申込み期限

2024年5月31日（金）まで

■ 申込み・問合せ先

東北生産性本部 TEL. 022-261-0411

FAX. 022-261-1474

E-mail: tpc2@t-productivity-ce.jp

tpc3@t-productivity-ce.jp

2024年度 仙台シンポジウム 年間参加申込書

2024年 月 日

会社・労組・団体名			
ご住所	〒		
電話・FAX			
ご担当者	所属・役職・氏名		
	メールアドレス		
参加者氏名	所属・役職名	備考	

申込書受領後、請求書を送付いたします。

「2024年度 仙台シンポジウム」の概要と講師の紹介

7月例会	演題	「人的資本経営の最新動向」(仮称)
7月16日(火) 15:00~16:30	講師	人的資本経営の先駆者 一橋大学 CFO 教育研究センター長 伊藤 邦雄 氏
	会場	ホテルJALシティ仙台 2階 「ローズ」
<p>1975年一橋大学商学部卒業。80年一橋大学大学院博士課程単位取得退学、一橋大学商学部専任講師、84年助教授、92年教授。その後、一橋大学大学院商学研究科長・商学部長、一橋大学副学長を歴任。経済産業省の「持続的成長への競争力とインセンティブ～企業と投資家の望ましい関係構築～」プロジェクト、「持続的な企業価値の向上と人的資本に関する研究会」では座長を務め、それぞれの報告書が「伊藤レポート」「人材版伊藤レポート」として大きな反響を呼んだ。専門は、会計学、企業価値創造論、ESG・SDGs論、コーポレート・ガバナンス論など。</p>		

8月例会	演題	「今、世界で日本で何が起きているのか」(仮称) ～メディアでは伝えきれない世界の動きとこれからの日本～
日程調整中	講師	経済・社会・政治の分析家として活躍するメディア人 国際ジャーナリスト モーリー・ロバートソン 氏
	会場	未定
<p>日米双方の教育を受け、1981年に東京大学とハーバード大学に同時合格する。日本語で受験したアメリカ人としてはおそらく初めての合格者。東大、ハーバード大学に加え、MIT、スタンフォード大学、UCバークレー、プリンストン大学、エール大学にも同時合格。東京大学を1学期で退学し、ハーバード大学に入学。電子音楽とアニメーションを専攻。アナログ・シンセサイザーの世界的な権威に師事。報道・情報番組のコメンテーター業、幅広いバラエティ番組に出演中。</p>		

9月例会	演題	「自民党総裁選の行方と今後の政局展望」(仮称)
9月4日(水) 13:30~15:00	講師	政界の裏を熟知した、「新党請負人」 政治アナリスト 伊藤 惇夫 氏
	会場	ホテルJALシティ仙台 2階 「ローズ」
<p>1973年学習院大法学部卒業後、自民党本部に勤務。94年新進党に移る。その後、太陽党、民政党、民主党の事務局長に就任。新党の立ち上げに次々と立ち会ったことから「新党請負人」の異名を持つ。2001年に民主党を退任し、政治アナリストとして独立。執筆業のほか、ニュース番組等でコメンテーターとして活躍中。著書『政党崩壊』、『永田町「悪魔の辞典」』など。</p>		

10月例会	演題	「米国大統領選挙の行方と日本への影響」(仮称)
日程調整中	講師	外交ジャーナリスト・作家として、メディアで広く活躍中 外交ジャーナリスト/作家 手嶋 龍一 氏
	会場	未定
<p>1974年慶應義塾大学経済学部卒業。NHKワシントン支局長在任中、2001年の同時多発テロ事件では11日間にわたる24時間連続の中継放送を担当、冷静で的確な分析が視聴者の圧倒的な信頼を得た。ノンフィクションの書き手としても注目され、『たそがれゆく日米同盟—ニッポンFSXを撃て』や、『外交敗戦—130億ドルは砂漠に消えた』は現在も版を重ねるロングセラーとなっている。外交・インテリジェンスを中心に新聞等に寄稿。外交・安全保障を中心に後進の指導にも積極的に取り組んでいる。著書『ウルトラ・ダラー』『スギハラ・サバイバル』、『鳴かぬのカッコウ』、『武漢コンフィデンシャル』、『ウクライナ戦争の嘘』など。</p>		

11月例会	演題	「私たちの暮らしと地域経済」 ～東北地域の活性化のために今できること～(仮称)
11月12日(火) 13:30~15:00	講師	専門分野 地方自治論、地域政策論 大正大学公共政策学科教授 片山 善博 氏
	会場	ホテルJALシティ仙台 2階 「ローズ」
<p>1974年東京大学法学部卒業後、自治省に入省。大正大学社会共生学部公共政策学科特任教授、地域構想研究所所長、地域共創コンソーシアム代表。元鳥取県知事(2期)、地方制度調査会副会長(第29代)、行政刷新会議議員、総務大臣(第14代)を歴任。著書『住むことは生きること 鳥取県西部地震と住宅再建支援』(東信堂)、『市民社会と地方自治』(慶應義塾大学出版会)、『知事の真贋』(文春新書)など。</p>		

12月例会	演題	「2025年 日本経済の展望」(仮称)
調整中	講師	米国政治や外交・安全保障論に精通 エコノミストとして活躍 (株)双日総合研究所チーフエコノミスト 吉崎 達彦 氏
	会場	未定
<p>1984年一橋大学社会学部卒業後、日商岩井株式会社入社。広報誌『トレードピア』編集長などを経て、1991年米ブルッキングス研究所客員研究員。1993年から経済同友会に出向し、代表幹事秘書調査役。1995年に日商岩井調査・環境部に戻り、以後、調査畑を歩む。日商岩井とニチメンの合併により、2004年4月より現職。社外活動として、NPO法人岡崎研究所理事・特別研究員、東京財団「若手安保研究会」座長、NPO法人ミレニアムプロミスジャパン理事などを歴任。テレビ朝日「サンデープロジェクト」、テレビ東京「モーニングサテライト」ほか、テレビ・ラジオ出演多数。</p>		

2月例会	演題	「脳と人工知能をつないだら、人間の能力はどこまで拡張できるのか」～脳A I融合の最前線～（仮称）
2月13日(木) 13:30~15:00	講師	脳研究の第一人者 東京大学薬学部教授・脳研究者 池谷 裕二 氏
	会場	ホテルJALシティ仙台 2階 「ローズ」
<p>1988年東大薬学部系研究科で博士（薬学）を取得。論文名は「てんかん様過剰神経活動による海馬神経回路の異常形成」。大学院修了までに筆頭著者として13報の学術論文を発表した。コロンビア大学客員研究員などを経て、2014年から東京大学大学院薬学系研究科・教授に就任し現在に至る。専門は薬理学、神経生理学。『単純な脳、複雑な「私」』、および『進化しすぎた脳-中学・高校生と語る大脳生理学の最前線』が科学出版賞にノミネートされたのをはじめ、日々研究者としての多忙な生活を送りながらも、脳研究者の立場から精力的に執筆活動も行う。著書『記憶力を強くする』（講談社）、『できない脳ほど自信過剰 パテカトルの万脳薬』（朝日文庫）など。</p>		

注1. 記載の演題は、変更となる場合があります。

注2. 8月・10月・12月例会の日程・会場が決まりましたら、適宜ご案内をさせていただきます。